



TITLE:

# <大會抄録>蔣介石と南京國民政府： 中國國民黨の權力浸透に関する分 析

AUTHOR(S):

家近, 亮子

---

CITATION:

家近, 亮子. <大會抄録>蔣介石と南京國民政府：中國國民黨の權力浸透  
に関する分析. 東洋史研究 2001, 60(3): 561-561

ISSUE DATE:

2001-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155392>

RIGHT:

た、それが社會の中で客觀的にどのように位置づけられるかなどについて分析してみたい。

### 蔣介石と南京國民政府

#### ——中國國民黨の權力浸透に關する分析——

家 近 亮 子

私は、中國國民黨が中華民國を代表する正統政府である南京國民政府を成立させ、日中戰爭を勝利に導きながら、續く中國共產黨との内戦において敗北した最大の原因を、中國國民黨の權力の不浸透に求める。

その不浸透の要因は以下のことに求められる。

① 孫文理論に基づいた國家建設プログラム實現という政策課題の達成義務と内外の政治状況との矛盾。

② 孫文後繼をめぐる黨内における矛盾。

・ 孫文理論の「不精緻」性と解釋權の不確立。

・ 蔣介石の權力への挑戦とそれを阻止しようとする黨内對抗勢力との對立。

③ ②を背景とする制度化及び政策の轉變。

④ ③を背景とする、黨組織形成の全國的展開、及び黨員の全國的擴大の不足。

以上の要因によって、中國國民黨はその支配の基本ともなるべき「以黨治國」を實現することができなかった。そのことは、かえつ

て日中戰爭勃發後、黨内における蔣介石の個人獨裁を容認することとなる。その結果、多くの知識人及び中間勢力を國民黨から離反させ、共產黨の下に糾合させることとなったのである。

### 高昌國の成立をめぐる

關 尾 史 郎

『吐魯番出土文書』を開いてみればわかるように、ちょうど一五〇〇年前に成立した魏氏高昌國（五〇一—六四〇年、表題も含め、以下、「高昌國」）時代のトゥルファン文書は、大多數が官府・官員によって作成されたとおぼしき帳簿類である。一方、同じく官府・官員によって作成された狹義の官文書は数が少ないばかりか、奏・符・辭・班示など種類もまことに貧弱なのである。そしてかかる傾向は、五胡時代の文書と比較しても顯著と言えるのであって、偶然として處理することはできない。發表者は、このような文書の殘存状況と「正史」高昌傳の記述とを合わせ検討することによって、高昌國の國制の、同時代の中國王朝とは大きく異なった特質を明らかにすることができると思われるものである。

高昌國の國制については、狹義の官文書の體系や郡縣制の運営などを中心に検討が進められてきており、郡と縣には統屬關係がなかったこと、太守や縣令は遙任化していたことなどが既に明らかになっている。發表者は、右のような方法をとりながら、これまでの成果の上に新たな知見を加えたい。これが第一點である。また特異な